

団体名	鹿屋体育大学学生
日 時	平成 27 年 11 月 19 日（水）16 時から 17 時 45 分まで
場 所	鹿屋市役所議会棟 全員協議会室
参加者	鹿屋体育大学生 15 名、関係職員
	市長、市民生活部長、市民スポーツ課長

1 鹿屋市での生活について

2 鹿屋体育大学・行政・市民連携のための取組について

市長：鹿屋市長になる前は、県の職員として奄美や川内など県内色々な場所で働いたが、40 歳の時に当時の部下からの勧めもあり、なのはなマラソンに参加し 40 歳から 57 歳まで 17 年間毎年走った。その他にも、錦江湾の遠泳や霧島高原サイクルジャンボリーのヒルクライムへの参加。トライアスロンへの挑戦など、時間が取ればスポーツを楽しんでいた。

スポーツを通して思うことは、練習は嘘をつかないということ。個人的な部分では、練習をすれば素人はすぐ伸びることができ、練習での努力が報われる感覚を味わうことができる。皆さんのようなトップアスリートは練習をしたからと言って簡単に記録は変わらないと思うが、素人にとっては、スポーツの醍醐味としてその感覚を味わえる。

今、市役所には、鹿屋体育大学の OB が 14 人いる。市議会での質問に、鹿屋体育大学の卒業生を市で雇用すべきという質問があった。皆さんもぜひ鹿屋市役所を受けていただきたい。また、消防についても皆さんの就職先として合っているように思う。雇用の場は、この地域にもあるので、皆さんの就職先として参考にしていきたい。

それから、東京へ出張したとき、東京の人に鹿屋市長ですと話すと、「鹿屋といえば鹿屋体育大学や自衛隊の基地がありますね」と言われる。鹿児島市であれば「鹿児島大学がありますね」とは言われない。鹿屋にとって体育大学がいかに大きな存在であるかと思うので、これを生かして一緒にまちづくり等を考えたい。鹿屋体育大学は、鹿屋の宝だと思っている。

皆さんは、鹿屋に住んでみてどうか。住み心地や、良い所、悪い所、感じていることを本気で話してほしい。

学生：鹿屋はご飯が美味しい。量が多く値段も安い。体育大学の近くにランチが食べられる店があるが、600 円出せば食事できる。東京だと 1,000 円はかかる。また、普段は自炊をしているが、スーパーに鶏刺しが売っていることにビックリした。

学生：移動手段が自転車しかないなので、大学の周辺だけで生活している。遠いところに行くにはバスの本数が少ないし料金も高い。アクセスが不便であり、病院に診察に行くことも難しい。

学生：東京の人は、時刻表を見ない。こちらは本数が少ないため、時刻表をみてからバス停に行かないとバス停でひたすら待たされることになる。

市長：皆さんの居住先は、寮かアパートか。

学生：寮が多い。70人住める寮が5つあり、内1つは女子寮である。

市長：ということは、学生の半分以上は民間のアパート等での居住ということになる。皆さん、遊ぶ時はどういった所に行くのか。

学生：公園。釣り。海。川。山。自然に囲まれているのでアクティブに遊びに行く。こちらは雪も降らないので、皆でご飯を食べた後など、海や山に出かけて行く。

市長：女性の皆さんにとっては、鹿屋は住みやすいか。

学生：私には住みにくい。虫が嫌いなのだが、とても多い。

学生：自分はアクティブ派なので、海などで遊んでいるが、たまには映画を見るなど街で遊びたくなる。

学生：どこに行くにもバスの間隔が空きすぎるので、便を増やしていただきたい。

学生：冬は御岳に登山する。おおすみくん家にも行く。

市長：鹿屋では都会的な遊びを望むより、自然を生かした遊びで盛り上がる方が良いということかなと感じる。

学生：私は、部活が終わるのが遅いので、その後はカラオケに行くことで満足している。

市長：大会等で、大きな都市に行った時に都会的な遊びをしてもらえば良いのかなとも思う。鹿屋にはこれが足りないというものがあるか。

学生：満足している。

市長：競技をする上で、もっとやってほしい事などあるか。

学生：体育大学の中には整備されているが、大隅地域には、タータン（ゴム製のトラック）のある陸上競技場がなく、小・中・高校生はタータンで練習ができない。1レーンに1千万円はかかるが、この地域に鹿屋にしかない陸上競技場ができれば、合宿等の呼び込みも増える。県内では、鹿児島市、霧島市、日置市、薩摩川内市に整備されており、大隅地域で鹿屋市にできれば有利である。

学生：向こう岸（薩摩半島）に行くのに、垂水、桜島まで行かないといけない。山

川もあるが、根占港発は朝9時からの便であり、大会等で早朝に動くときは間に合わない。

市長：皆さんの意見を聞いていると、学校内の施設には満足しているということだ
と思う。また、話にあったように、この地域に陸上競技に特化した拠点施設がで
きれば、確かに違う流れもできるかもしれないなと思う。

今、市では、串良地区に屋内の野球練習場を作っている。施設の整備等につい
ては、どの種目の何をするという選定が難しいが、本地域では野球の合宿が一番
多い。この屋内練習施設は、フットサルや幼稚園の運動会なども出来る広さがあ
る。

施設整備は、屋内・屋外野球場、テニス、サッカー場と話が出るが、何かに特
化して整備しないと、とてもじゃないがお金が足りない。

かごしま国体においては、鹿屋でもバレーボールやボートがあるが、それぞれ、
照明のLED化や大隅湖の浚渫の問題などがあり、それぞれの競技において色々手
を入れるところがある。それから、今取り組んでいるのがスポーツ合宿であるが、
地域に対する経済効果は微妙なところもある。

学生：シリアスにスポーツに打ち込んでいる人より、スポーツを楽しんでいる人を
呼び込んだ方が良いのでは。

市長：確かに、体育大学に合宿で来ているトップアスリートの人たちに観光を言う
のは目的が違う。同好会として楽しんでいる人たちに来てもらえると、スポーツ
をしながら観光もしてくれるかもしれない。

学生：今は、鹿屋には自然があるだけだが、自然とスポーツを合わせて何かを作る
ことができれば、他の地域と差別化ができるのではないか。自然と子ども達が触
れ合えるようなものがあると良い。

市長：スポーツ健康都市として、どうすれば良いという提案は何かあるか。

学生：蒼天祭の企画段階で出た話で、「鹿屋オリンピック」を開催してはどうかとい
う案があった。例えば、鹿屋体育大学の学生と自衛隊鹿屋基地の隊員とで本気の
勝負をすれば、見に来てくれた市民が喜んでくれるのではないかと考えた。

体育大生も、企画の段階ではまりが悪いなど色々あるが、イベントを開催して
しまえば盛り上がるので、企画を模索することに力を使うよりは、まずは体育大
生が率先して大学の施設を使いながら市民にやって見せれば良いと思う。

市長：市民から良く言われるのが、大学の施設の開放である。恐らく、市民の3分
の2は体育大学に行ったことの無い人である。先日、体育大学の先生達とも協議
したが、市内の子供達に、体育大の施設や学生の練習風景を見せることは大切で
はないかと考える。大学と市民との交流がもっと活発になれば良いと考えている。

学生：きっかけさえあれば話は進むと思う。野球部等は、教室を作って取り組んでいるが、他の部もきっかけさえあればやってくれると思う。

学生：なぎなたを専攻しているが、鹿屋には、なぎなたの教室がない。

学生：柔道は、呼ばれたときに審判として活動している。きっかけさえあれば指導にも行きたいが、呼ばれるのを待っているのではなく、自分から動くことが必要であると感じている。

市長：皆さんからレベルの高い指導を受けると、子供達も喜ぶ。皆さんの話を聞くとそういったことも歓迎するということなので、例えば普段の体育の授業の時間に皆さんの技を見てもらうなどすると、とても喜ばれると思う。

鹿屋市の子供達の学力と体力は、全国的にも、県内でも平均より低い。せっかく地元で国立で唯一の体育大学があるのに、この状況は寂しいものがあるので、皆さんとサイトのようなものを作って、大学の先生や学生を含めて子供達の体力アップに取り組んでみたい。

学生：事業として取り組めないか。

市長：先日、大学の先生達と話をしたときにも話題にでた。子供達の学校の体育の時間に実施することは可能と思うが、学校によっては先生が体育大学の学生に任せきりになる可能性もあり、それは困るという話があった。怪我をしたときの対応などルール作りをしないといけない。ただ、鹿屋の小中学生からすれば、体育大の学生が教えてくれるというのは、すごく良い体験になると思う。

学生：最近、花岡学園で授業に参加しているが、自分達にとっても良い経験になっている。

学生：2週間ほど前、市外の自分の母校で走り高跳びを披露した。身長より高いラインを飛んで見せることで、みんなの目が輝いていた。きっかけさえあれば、鹿屋の学校でもできる。

市長：市側で機会を作れば対応は可能であろうか。個人としての依頼は問題があるかもしれないが、部活の顧問を通して依頼すればよいと思うので、ルールを作っていきたい。

学生：今ここに参加している人は、積極的な気持ちを持っている人が多いと思うが、他の学生は受身の人も多く、話があればやりますよという人が多いと思う。自分からやりますよという人の中からメンバーをピックアップして、市や学生課でプログラムを組んで学校を動かすことができれば、取組の第一歩になり大学と市の関係がぐっと近くなると思う。

市長：部を仕切っているのは体育会になるのか。

学生：鹿屋体育大学の場合は少し特殊で、体育会の先にサークルが出来ていたのので、体育会の力は弱い。自治会としてはどうにかしないとイケないと思うが、今体育会で持っているのは、蒼天祭のみである。

市民生活部長：先生によって、市との接触の度合いが違うように感じる。例えばある部は色々な活動をされているが市までは声がかからない。市としてもお付き合いをしたいと考えている。

提案：剣道部は、週に2回武道館で指導をしているが、市と連携が取れているとは言えないかもしれない。

市民スポーツ課長：各部の取組のPRについては、表敬を実施すればマスコミがくる。表敬に際して一定の基準はあるが、基準が合えばぜひ表敬していただきたい。

市長：先生によっては、そういった取組を知らないこともあると思う。

学生：監督さんの考えにもよると思う。

市長：皆さんから、地元に向かって、こういったことをしてほしいという話はあるか。

学生：柔道をしているが、遠征費が相当かかる。自転車にはスポンサーがついている。どうしたらスポンサーがつくだろうか。

学生：自転車は、スポンサーにメルセデス・ベンツがついたが、イベントがあった際に学生がベンツの担当者に話しかけたのがきっかけである。

市長：市民との交流を考えたとき、大学の自転車競技部の黒川先生は、年に1回交流会を開催しており、応援している人が参加して抽選会などもしている。皆から応援してもらえる雰囲気を作ることは大切で、資金源をどうするかも含め応援団になってもらえるパイプ作りが大事である。一例として、小学生に教えに行くなどの活動が、そのきっかけになるかもしれない。

学生：応援団ができることを、資金源へと結び付けると良いのでは。

市長：ただ、その繋がりを、資金源として考えるのは少しどうかなとも思う。スポーツが好きな人は、皆さんの頑張りをみて応援したくなる。これは、1～2年でできることではなく、日頃のお付き合いが大事なので、お互いの距離感を感じなくなる仕組みを作れば良いと思う。

学生：学生は、監督がいてのものなので、監督や教員による部分もあると思う。

市民スポーツ課長：教育という意味では、実際のスポーツだけではなく、スポーツマネジメントやスポーツ経営についても協議すべきテーマではないか。

学生：学生の傾向としては、人にもよるが、何をしても面倒くさがるところがある。やろうという人がたくさん出てきて学生自治をしっかりと行えば、市や市民とも密接にかかわれると思う。

市長：遠征費はどれくらいかかるのか。

学生：柔道部でいえば、部費が年7万円であり、遠征試合の度に全額自腹での負担である。強化指定を受けていれば、大学から補助が出るが、それでも相当な額になる。

市長：アルバイトは行っているのか。

学生：柔道部は、アルバイト禁止である。

学生：私の住んでいた地域では、大学の近くにはスーパーや色々な施設がたくさんあったが、鹿屋体育大学の近くには、レストランしかない。市民が体育大学に行く機会がないのでその周辺にも何も無い。

学生：テニスは、市役所の職員がOBなので、連携して取り組んでいる。

今度、12月の16日と17日に鹿屋の高校生を呼んでテニス教室も実施する。個人でレッスンを受け持っている人もいる。

それから、以前、仲町のバーでアルバイトをしていた時に、市役所の人に来て話が盛り上がり、その後一緒にテニスをした。人が出会う場所として、仲町の飲み屋街の活性化も大切だと思う。今はどこに何があるかもわかりづらく、コミュニケーションを取りに飲みに行きたいが、中々行きづらい。

学生：ヨット部としては、海での遊びを市民とやりたい。海外の人たちのマリンスポーツにも携わったし、鹿屋は良い風が吹くので、競技面でもこの地は良い場所だと思う。そういった部分もPRをしたら良いと思う。

学生：他の地域の大学は、海まで1時間はかかるが、鹿屋は10分で行けるのも良いポイントである。

学生：鹿屋の高校にヨット部が無いので、ぜひ作ってほしい。

学生：バスケットについて、年に1～2回は大会がある。PRはしているものの人が

なかなか来ない。そういった部分で市と一緒にPRできればと思う。先日も、プロの選手が来たが、客席は埋まらなかった。お客さんが少ないと選手のモチベーションにもかかわるので、自分たちももっと動いてPRしたい。

市長：そういう情報が市民の耳に入れば、行きたい人はたくさんいると思う。例えば、市の広報誌の中にそういった大会の情報を入れても良いのではと思う。大学のホームページには、大会等の情報は出ていないのか。

大学広報職員：そういった情報を学生側から学校の広報にまわしてもらえば、どんどん載せていく。

市長：我々としても情報はどんどん出してほしいし、情報の窓口として体育会と大学と一緒に取り組めば良いと考えている。

市民生活部長：各家庭に配布してある防災行政無線が約3万戸分。その他、市のホームページや広報誌、それからFMかのや等様々な媒体があるので、ぜひ活用してほしい。

学生：防災行政無線は、自分たちの声でも放送できるのか。

市長：可能なので、担当課に相談してほしい。

学生：野球部は、大隅半島に貢献したいという思いから、小中学生を対象に野球教室を実施している。年に1～2回の実施であり、今後、小中学校の体育の授業でも指導できれば良いと思う。

学生：バレー部については、大学のリーグを鹿屋で開催してもらうなど色々な支援をしていただいている。学校でも受け入れを持っていて、小中高と取り組んでいるが、地元学校の卒業生がいる等どこかで繋がりががあるので関係が出来ている。繋がりのない小中高とも同じように取り組んでいける環境作りが大事である。

大会の宿泊先の確保についても、鹿屋で宿泊できない人が周辺の地域で宿泊する。学生は構わないと思うが、トップレベルの選手へのおもてなしを考えると、市内に良いホテル等あれば、バレーに限らず他の競技も開催されるのではないかと。

学生：鹿屋市は良い所なので、みんなでより良くしていきたい。

市長総括：今日は、皆さんが大学の外で地域貢献をしたいという話を聞かせてもらった。それを、我々がどう受け入れ生かしていくかが大事だと考えている。

今日の話の中で、それぞれの窓口もできたし、大学の事務局の方も来ておられるので、これを話っぱなしにならないように具体的な形にしていきたい。

市民は、皆さんを応援したいと思っている。皆さんも市民の心をキャッチでき

るような取組をすれば距離感を縮めることができる。ぜひ頑張ってください。
我々もできる限りの協力をしていく。

学生リーダー：今日は、思っていたより発言が出て良かった。今日の協議の中で、
まずは、学生と大学事務局との繋がりが大切だと感じた。本日は色々考える良い
機会となった。

市長：鹿児島弁で言う、「語り散らかし」にならないようにしないとイケないが、今
日は、皆さんと市との繋がりをどうとれば良いかということも分かったし、皆さ
んの話聞いていたら学生側は学生側の問題があるようなので、お互いの抱えて
いる問題を一つ一つ解決しながら、連携して取り組んでいきたいと考えている。